

shindaiwa

取扱説明書

防音型発電機

DG24MR

DG30MR

空冷4サイクル・ディーゼルエンジン

目次	頁
はじめに	1
1. 安全上の注意	2
2. 仕様	5
3. 用途	5
4. 各部の名称	6
5. 装備	8
5-1. 警告灯	8
5-2. 自動エア抜機構	9
5-3. ブレーカー	9
5-4. アース端子	10
5-5. 時間計	10
6. 運転方法	10
6-1. 始業前点検	10
6-2. 始動	13
6-3. 停止	15
7. 発電機の操作	16
7-1. 操作	16
7-2. 使用できる機器の容量	17
8. 点検・整備	17
9. 長期保管	21
10. 故障時の対応	22





注意：安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

はじめに


このたびは、新ダイワの防音型発電機をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- この取扱説明書は、本機を安全に正しく使用していただくために作成しています。
本機の取り扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますので、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。
 - 本機の取扱いは、この取扱説明書の内容を理解し、安全な取り扱いができる人が行ってください。
 - 本機を貸し出すときは、必ず取扱説明書を添付してください。
 - 取扱説明書は、いつでもご覧いただけるように大切に保管してください。
- この取扱説明書では、注意事項のランクを下記のように区分しています。

 **危険**：取り扱いを誤ると、死亡または重傷を負う可能性がある場合。

 **注意**：取り扱いを誤ると、中程度の傷害や軽傷を負う可能性がある場合、および物的損害が発生する可能性がある場合。

<注意>：本機の保護と、本機の性能を十分に発揮させるための注意事項。

- 『 注意』に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

1. 安全上の注意

危険：排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。

危険：感電

- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
- 出力コンセントに、ピンや針金などの金属物を入れないでください。
- 運転中は、内部の配線や電気部品に触れないでください。
- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

注意：排気ガス中毒

- 排気を通行人や民家などに向けないでください。

注意：感電

- 本機に水をかけたり、雨中での使用はしないでください。

注意：目や皮膚の傷害

- バッテリー液には希硫酸が含まれていますので、目・皮膚・衣類などに付着させないでください。
付着したときはすぐに多量の水で洗い流し、特に目に入ったときは必ず医師の診断を受けてください。

注意：爆発

- バッテリーの液面高さが下限レベル以下では使用や充電をしないでください。
- バッテリーは引火性ガスを発生しますので、付近でスパークさせたり火気を近づけないでください。

注意：火災

- 本機は、燃料として軽油を使用しています。燃料の点検や給油・抜き取り、燃料ストレーナーの交換など、燃料を扱うときは必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。

- 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。
また、燃料もれがある場合は、絶対に使用せず、必ず修理してください。
- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。
- 本機は壁などの障害物から 1 m 以上離し、水平な場所で運転してください。
- 保管用カバーなどをかけるときは、本機が冷えてから行ってください。
- 屋内配線に接続しないでください。（法令でも禁止されています）

注意：やけど

- 運転中や停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、触れないでください。
- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。

注意：けが

- 本機を吊り上げるときは、必ず吊り金具を使用してください。
取手で吊り上げると、取手が外れて落下することがあります。
- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置し、車輪には必ず車輪止めをしてください。
- エンジンを始動するときは、必ず使用機器のスイッチを切り、ブレーカーを『OFF』にしてください。
- 運転中に移動しないでください。
- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
- 改造したり、部品をはずしたままで運転しないでください。

■警告ラベル貼付位置

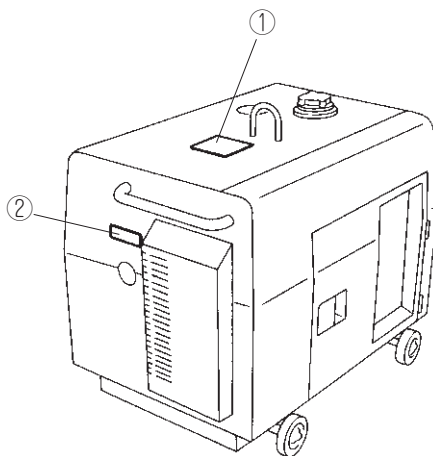
警告ラベルが見えにくくなったり破損したときは、新しいラベルを指定場所に貼りかえてください。ラベルの注文は（ ）内の番号で注文してください。

①排気ガス中毒

(品番19402-00106)

②やけど

(品番19402-00112)



2. 仕様

モデル		DG24MR-A	DG24MR-B	DG30MR-A	DG30MR-B
発電機	発電方式	回転界磁型同期発電方式			
	励磁方式	自己励磁方式			
	電圧調整方式	コンデンサー方式			
	周波数 (Hz)	50	60	50	60
	相	単相			
	定格出力 (kVA)	2.2	2.4	2.7	3.0
	定格電圧 (V)	100			
	定格電流 (A)	22	24	27	30
	定格回転速度 (min ⁻¹)	3000	3600	3000	3600
	力率	1.0			
定格	連続				
エンジン	名称	ロビンDY23-2DS		ロビンDY27-2DS	
	型式	空冷4サイクル・ディーゼルエンジン			
	連続定格出力 (kW/min ⁻¹ {PS/rpm})	2.8/3000 {3.8/3000}	3.1/3600 {4.2/3600}	3.3/3000 {4.5/3000}	3.7/3600 {5.0/3600}
	排気量 (ml)	230		265	
	燃料の種類	JIS2号軽油			
	潤滑油容量 (L)	0.9			
	始動方式	セルスターター方式			
	燃料タンク規定容量 (L)	15			
	連続定格運転時間 (h)	18.0	15.5	13.5	12.0
	装備		ノーヒューズブレーカー		
		オイル警告灯〔自動停止〕・充電警告灯			
		自動エア抜き機構			
		時間計			
外形寸法 L×W×H (mm)	796×557×709				
乾燥質量 (kg)	116		118		

※30Aコンセントに接続する電源プラグは、別売品です。

3. 用途

- 電動工具の電源
- 照明機器（投光機など）の電源
- 家電機器の電源

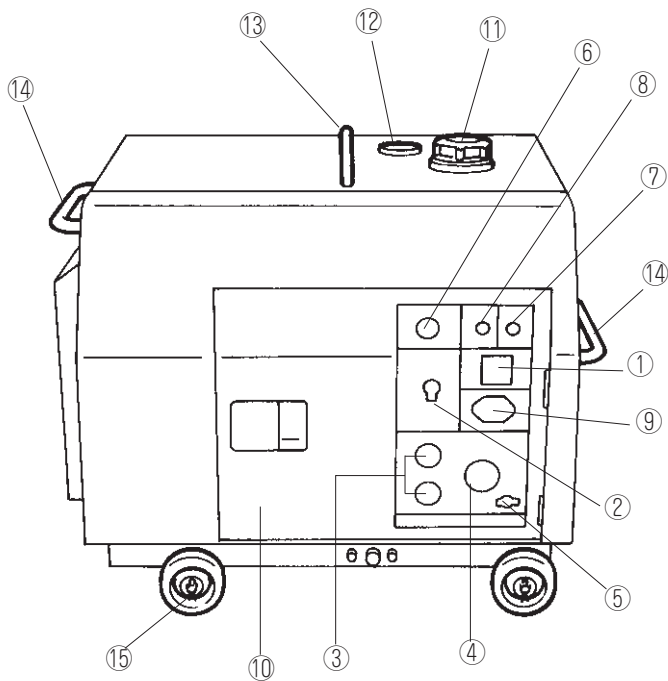


注意：物的損害

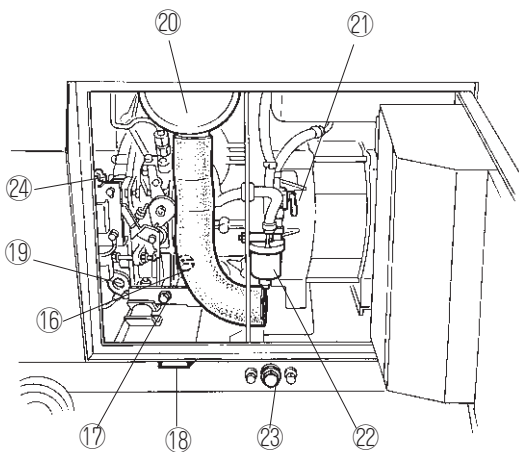
- コンピューター・マイコン搭載機器・精密機器の電源として使用しないでください。
使用機器が故障することがあります。

4. 各部の名称

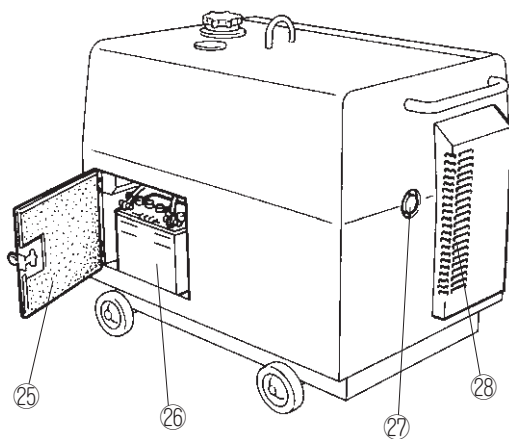
- | | |
|-------------|------------------|
| ①電圧計 | ⑨時間計 |
| ②ブレーカー | ⑩フロントドア |
| ③15A出力コンセント | ⑪燃料タンクキャップ・燃料給油口 |
| ④30A出力コンセント | ⑫燃料ゲージ |
| ⑤アース端子 | ⑬吊り金具 |
| ⑥スタータースイッチ | ⑭取手 |
| ⑦オイル警告灯 | ⑮車輪 |
| ⑧充電警告灯 | |



- ①⑥ オイルゲージ・オイル給油口
- ①⑦ オイルドレンプラグ
- ①⑧ オイル排出口
- ①⑨ オイルフィルター
- ②⑩ エアクリーナー
(クリーナーカバー)
- ②⑪ 燃料コック
- ②⑫ 燃料ストレーナー
- ②⑬ 燃料ドレンプラグ
- ②⑭ エンジン非常停止レバー (赤)



- ②⑮ バッテリー点検ドア
- ②⑯ バッテリー
- ②⑰ マフラー
- ②⑱ 排風口




5. 装備

5-1. 警告灯

『オイル』『充電』警告灯は、スタータースイッチを『運転』の位置にすると点灯し、エンジン始動後は消灯します。

(1) オイル（油圧低下）警告灯

 **注意：やけど・けが**

- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。

 **注意：けが**

- 自動停止の確認でエンジンを再始動するときは、使用機器のスイッチを切り、ブレーカーを『OFF』にしてください。

運転中にエンジンオイルが少なくなって圧力が下がる（ポンプにエアが混入すると、オイル警告灯が点灯しエンジンが自動停止します。

エンジンの停止と同時に充電警告灯も点灯しますので、確認は、一旦スタータースイッチを『停止』の位置にもどし、エンジンを再始動させていただきます。

しばらくして、オイル警告灯が点灯して自動停止する場合は、『エンジンオイルの点検（P10）』の項を参照のうえ、上限レベルまで給油してください。

<注意>

- オイルの劣化に対しては検知しません。
『点検・整備（P17）』の項を参照のうえ、エンジンオイルは定期的に交換してください。
- 本機を傾斜させて運転すると、クランクケース内でオイルレベルが変化し誤作動することがあります。

(2) 充電警告灯

運転中にバッテリー充電回路の異常で充電しなくなると、充電警告灯が点灯します。

運転は継続でき、また、バッテリー容量が十分残っている間はスタータースイッチによるエンジンの始動および停止も行えますが、早めにお求めの販売店が弊社営業所に修理を申し付けてください。

<注意>

- バッテリーの液量不足および劣化に対しては検知しません。
『バッテリーの点検 (P 12)』の項を参照のうえ、定期的に点検してください。
- バッテリーの放電により、スタータースイッチを『停止』にしてもエンジンが停止しなくなったときは、フロントドア内の非常停止レバー (P 15参照) で停止させてください。

5-2. 自動エア抜機構

燃料切れによるエンジン停止の後および点検・整備で燃料を抜き取った後に燃料を給油すると配管内部にエアが入りますが、エア抜き作業は必要ありません。

燃料を給油し約1分間待つだけで、再始動できます。

5-3. ブレーカー



注意：けが

- ブレーカー作動後、再度『ON』にするときは、必ず使用機器のスイッチを切ってください。

電流を取りすぎると、ブレーカーが作動し『OFF』になります。
運転中に使用機器が停止した場合は、ブレーカーを点検してください。
ブレーカーが『OFF』になっているときは、次の操作を行ってください。

1 ↓ 使用機器のスイッチをすべて切ります。

2 ↓ ブレーカーを『ON』にします。

<注意>

- 『使用できる機器の容量 (P 17)』の項を参照のうえ、電流を取りすぎないように注意して使用してください。

5-4. アース端子

本機をアース（接地）する端子です。

使用機器をアースしたときは、本機も必ずアースしてください。

5-5. 時間計

ブレーカーや使用機器の『ON・OFF』にかかわらず、エンジンを運転している間の積算時間を表示します。

定期点検などは、この表示時間を目安に行ってください。

6. 運転方法

6-1. 始業前点検

！注意：火災・やけど・けが

- 点検時は、必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。

(1) エンジンオイルの点検

オイル量の点検は、本機を水平にし、オイルゲージを給油口に差し込んだ状態で（ねじ込まないで）確認してください。

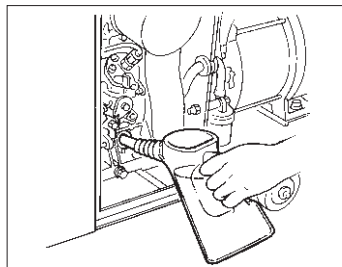
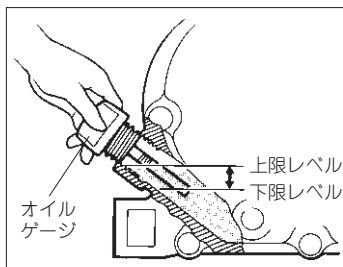
始業前には、オイルを上限レベルまで給油しておいてください。

オイル容量：約0.9L（全量）

オイル有効量：約0.4L（下限レベルから上限レベルまで）

<注意>

- 本機が傾いた状態では、オイル量を正確に確認することができません。



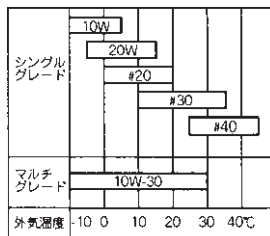
■エンジンオイルの選定

オイルは外気温度に応じて適正な粘度（表を参照）のディーゼル用エンジンオイルを使用してください。

<注意>

- オイルの品質は、CC級以上のものを使用してください。
- マルチグレードを使用した場合、外気温度が高いとオイルの消費量が増えますので、オイルの残量に注意してください。

オイル粘度の選定基準



(2) 燃料の点検



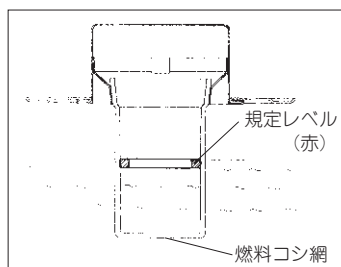
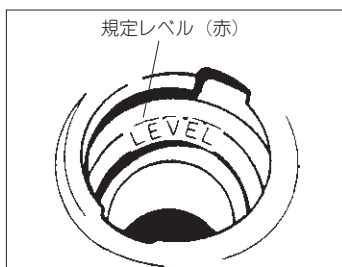
注意：火災

- 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。

燃料が規定レベル内に十分入っているか点検し、不足しているときは給油してください。

<注意>

- 2ヶ月以上使用しなかった燃料は、新しい燃料に入れ換えてください。
- 燃料はディーゼル用JIS 2号軽油（-5℃まで）を使用してください。ただし、寒冷時は3号軽油（-15℃まで）を使用してください。
- 給油時は燃料コックを閉じ、給油口に装着してある燃料コシ網を必ず使用してください。
- 燃料は規定レベル以上給油しないでください。（規定容量：約15L）



(3) 燃料・オイルもれの点検

⚠ 注意：火災

- 燃料もれがある場合は、絶対に使用せず修理してください。

フロントドアを開き、燃料配管接続部などからの燃料もれと、エンジンからのオイルもれがないか点検してください。

燃料もれの点検は燃料コックを開いて行い、点検後は必ず燃料コックを閉じてください。

燃料コックの開閉



開



閉

(4) バッテリーの点検

⚠ 注意：目や皮膚の傷害

- バッテリー液には希硫酸が含まれていますので、目・皮膚・衣服などに付着させないでください。

付着したときはすぐに多量の水で洗い流し、特に目に入ったときは必ず医師の診断を受けてください。

⚠ 注意：爆発

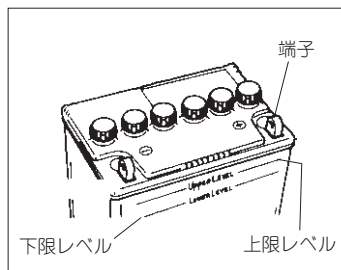
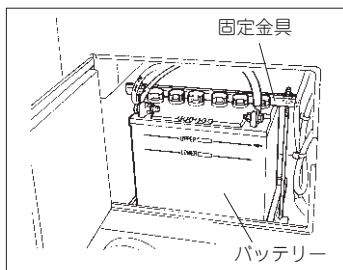
- バッテリーの液面高さが下限レベル以下では使用や充電をしないでください。
- バッテリーは引火性ガスを発生しますので、付近でスパークさせたり火気を近づけないでください。

1 ↓ 液面高さを点検し、下限レベルに近いときは蒸留水を上限レベルまで補給します。

2 ↓ 端子のゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めを行います。

<注意>

- セルモーターの回転音が、いつもより低くて弱くなったときは充電が必要ですので、お求めの販売店か弊社営業所に申し付けてください。



■ バッテリーの交換方法

- 1 ↓ 『-』側ケーブルをはずします。(必ず『-』側を先にはずします。)
- 2 ↓ 『+』側ケーブルをはずします。
- 3 ↓ バッテリー固定金具をはずします。
- 4 ↓ バッテリーを引き出します。(端子を本機に接触させないでください。)

※バッテリーの取り付けは逆の手順で行います。(『+』側ケーブルを先に取り付けます。)

<注意>

- バッテリーは『ユアサ SY-A19L』を使用してください。

6-2. 始動

⚠ 危険：排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。

⚠ 注意：排気ガス中毒

- 排気を通行人や民家などに向けないでください。

⚠ 注意：火災

- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物(燃料・ガス・塗料など)や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。
- 本機は壁などの障害物から1 m以上離し、水平な場所に設置してください。

！ 注意：けが

- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置し、車輪には必ず車輪止めをしてください。
- 始動前に、必ず使用機器のスイッチを切り、ブレーカーを『OFF』にしてください。

1 ↓ ブレーカーを『OFF』にします。

2 ↓ 燃料コックを『開』にします。

3 ↓ スタータースイッチを『運転』にし、警告灯が点灯することを確認します。

4 ↓ スタータースイッチを『始動』にすると、セルモーターが回ってエンジンが始動します。

<注意>

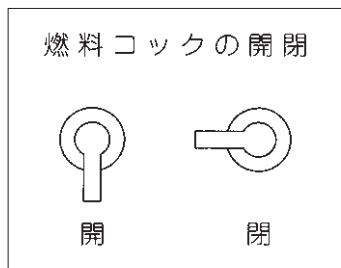
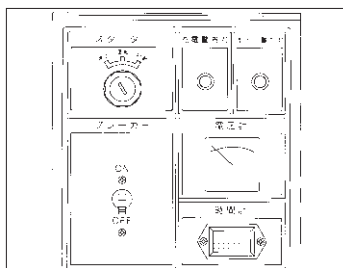
- セルモーターは、5秒以上連続してまわさないでください。
- スタータースイッチの操作を繰り返すときは、30秒以上操作間隔をあけてください。

5 ↓ エンジンが始動したら、スタータースイッチから手を離し、警告灯が消灯することを確認します。

<注意>

- エンジン始動後は、絶対にスタータースイッチを『始動』にしないでください。

6 ↓ 約5分間、暖機運転をします。



6-3. 停止

⚠ 注意：感電・けが・やけど

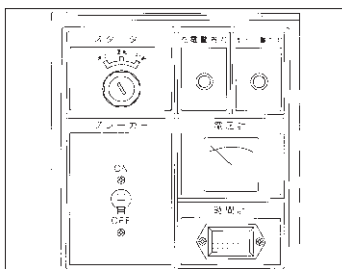
- フロントドア内の非常停止レバーでエンジンを停止させるときは、レバー以外には触れないでください。

1. ブレーカーを『OFF』にします。
2. 約3分間冷機運転をします。
3. スタータースイッチを『停止』にします。

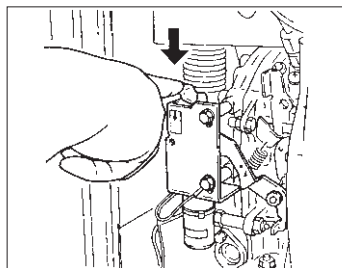
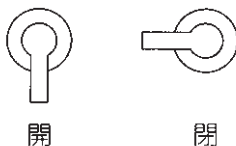
<注意>

- 『停止』操作後約20秒間、ストップソレノイドが通電し、エンジン停止レバーを引き続けます。
ストップソレノイド焼損の原因となりますので、10数秒間以下の運転と20～30秒間以下の停止を繰り返さないでください。
- エンジンが停止しないときは、フロントドア内の非常停止レバー（赤）をエンジンが停止するまで押し続けてください。
その場合は、本機をそのまま使用せずに、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申し付けてください。

4. エンジン停止後、燃料コックを『閉』にします。



燃料コックの開閉



7. 発電機の操作

⚠ 危険：感電

- 本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。

⚠ 注意：けが

- 使用機器のスイッチが『OFF』になっているのを確認してから、出力コンセントに電源プラグを差し込んでください。

⚠ 注意：物的損害

- コンピューター・マイコン搭載機器・精密機器の電源として使用すると、使用機器が故障することがあります。

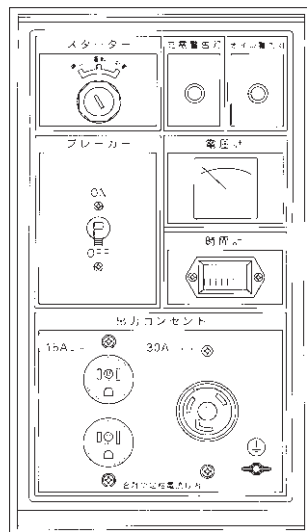
7-1. 操作

エンジン始動後、ブレーカーを『ON』にすれば、出力コンセントから100V交流電源が取り出せます。

<注意>

- 使用機器をアースしたときは、本機も必ずアースしてください。
- 15Aコンセント1個から取り出せる電流は、15Aまでです。
- 30Aコンセント1個から取り出せる電流は、30Aまでです。
- 3個のコンセント合計で定格電流以内で使用してください。

定格電流 (A)			
DG24MR		DG30MR	
50Hz	60Hz	50Hz	60Hz
22	24	27	30



- 30Aコンセントに接続する電源プラグは、別売品になっています。お求めの販売店でお買い求めください。
プラグキャップ (品番05200-35200)
- 運転中は、ブレーカーが『OFF』でも電圧計は出力電圧 (100V) を表示します。

7-2. 使用できる機器の容量（目安）

電動工具や家電機器は、その種類・性能によって使用できる容量が異なりますので、次の表（目安）を参照してください。

使用機器	容量の目安（W:ワット）			
	DG24MR		DG30MR	
	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz
白熱電球、電熱器など	2200	2400	2700	3000
蛍光灯、電動工具（整流子モーター）など	1100	1200	1400	1500
水銀灯（高力率型）〔W×台数〕	400×4	400×4	400×4	400×4
水中ポンプ〔W×台数〕	480×3	480×4	480×4	480×5
コンプレッサー〔W×台数〕	400×1	400×2	400×3	400×3

※容量の数値は、水中ポンプ・コンプレッサーは『出力』、他の機器は『消費電力』で表示しています。

※水中ポンプは、『コンデンサー運転モーター』方式の場合です。

<注意>

- モーターを使用した機器は、機器の定格より大きい電力を必要とすることがありますので、お求めの販売店が弊社営業所にご相談ください。
- 水銀灯・水中ポンプ・コンプレッサーなどの機器を2台以上使用するときは、機器を同時に起動させないで、1台ずつ起動させてください。
- 水銀灯を消灯した直後に再点灯するときは、約15分間待ってランプが冷えてから点灯してください。
- 水銀灯は、多少チラツキが発生することがあります。

8. 点検・整備

⚠ 危険：感電

- 必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意：けが

- 必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意：火災・やけど

- 絶対に火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから行ってください。

本機を常に良好な状態で使用できるよう、次の表にしたがって定期的に点検・整備を行ってください。

<注意>

- 表中の●印はお求めの販売店が弊社営業所に申し付けてください。
- 燃料パイプや防振ゴムは1年ごとに交換してください。
- 交換部品は、必ず純正品を使用してください。

項 目		始業前 点検	100時間 ごと	200時間 ごと	500時間 ごと	1000時間 ごと	1500時間 ごと
1	各部の清掃・締付点検	○					
2	エンジンオイル量の点検	○					
3	燃料・オイル漏れの点検	○					
4	バッテリー液量の点検	○					
5	エンジンオイルの交換 オイルフィルターの洗浄	(初回 25時間目)	2回目以降 ○				
6	エアクリーナーの洗浄		○				
7	燃料ストレーナーの水抜き・交換			○水抜き		○交換	
8	燃料タンクの水抜き			○			
9	ノズルの点検・清掃				●		
10	燃焼室内の清掃				●		
11	吸排気弁すきまの点検・調整				●		
12	ローター・ステーターの点検				●		
13	吸排気弁座の点検・すり合わせ					●	
14	オーバーホール						●

(1) エンジンオイルの交換とオイルフィルターの洗浄

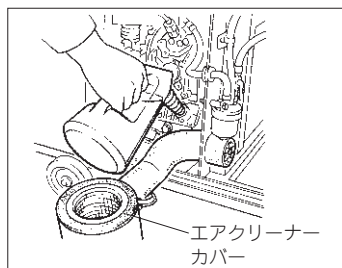
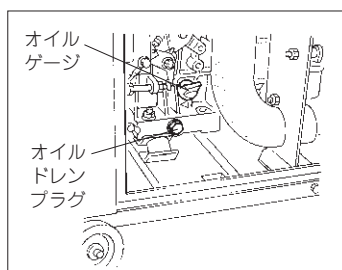
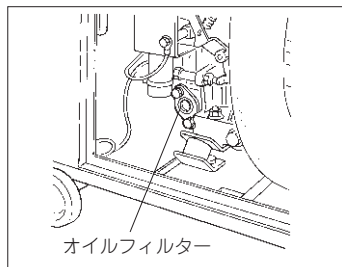
初 回	25時間目
2回目以降	100時間ごと

- 1 ↓ オイルゲージをはずします。
- 2 ↓ ドレンプラグをはずしてエンジンオイルを抜きます。
- 3 ↓ ドレンプラグを締め付けます。
- 4 ↓ オイルフィルターをはずします。
- 5 ↓ オイルフィルターの網の内側を軽油で洗浄します。
- 6 ↓ オイルフィルターを取り付けます。
- 7 ↓ エンジンオイルを上限レベルまで入れます。
(約0.9L入ります)

<注意>

- エアクリーナーカバーをはずし、ゴムブーツと一緒にドアの外に預けると、給油が容易に行えます。

- 5 ↓ オイルゲージを締め付けます。



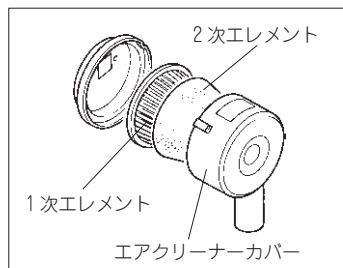
(2) エアクリーナーの洗浄

清掃	100時間ごと
----	---------

<注意>

- 汚れがひどくなると、出力低下や始動不良などを起こす原因となりますので、ホコリの多い場所で使用したときは早めに洗浄してください。

- ↓1 エアクリーナーカバーをはずします。
- ↓2 1次および2次のエレメントを石けん液で洗浄後、よく水洗いします。
- ↓3 1次エレメント（ペーパー）は振り絞り、2次エレメント（ウレタンフォーム）は固く絞ってから乾燥させます。



(3) 燃料ストレーナーの水抜きと交換

水抜き	200時間ごと
交換	1000時間ごと

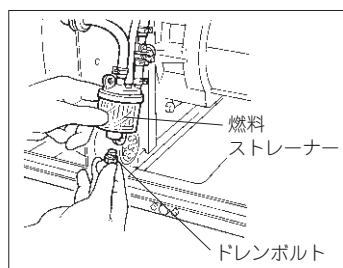
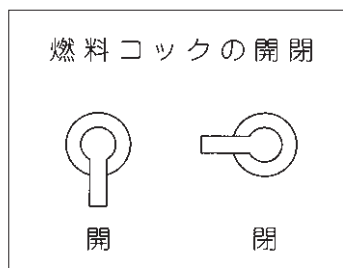
<注意>

- 噴射ポンプは精密にできているため、燃料の中にゴミや水が混入するとプランジャーの損傷や焼付きなどを起こす原因となります。

燃料ストレーナーは一体型で内部の清掃はできない構造になっていますので、アセンブリでの新品交換となります。

水抜きは次の手順で行ってください。

- ↓1 燃料コックを『閉』にします。
- ↓2 燃料ストレーナーの固定ボルトをはずし、燃料ホースごと手前に引き出します。
- ↓3 燃料ストレーナー下部のドレンボルトをはずして、水（燃料）を抜きます。
- ↓4 ドレンボルトを締め付けます。（締付トルク：1.0～1.6N・m）
- ↓5 燃料ストレーナーを元の位置にボルトで固定します。



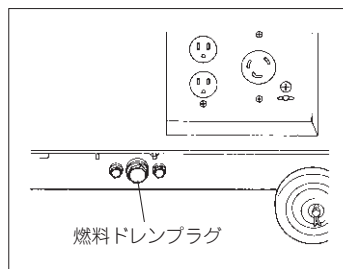
<注意>

- 燃料コックを『開』にしたあと、エアが自動的に抜けるまで約1分かかります。

(4) 燃料タンクの水抜き

水抜き	200時間ごと
-----	---------

- 1 ↓ フロントドア下の燃料ドレンプラグをはずして、水（燃料）を抜きます。
- 2 ↓ 燃料ドレンプラグを締め付けます。



9. 長期保管

⚠ 危険：感電

- 整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意：けが

- 整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意：火災・やけど

- 火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから整備を行ってください。

本機を2ヶ月以上使用しないときは、次の手順で整備を行ってください。

- 1 ↓ 燃料タンク内の燃料を全部抜き取ります。
- 2 ↓ 燃料ストレーナーやホース内の燃料を全部抜きます。（または、燃欠するまで空運転します。）
- 3 ↓ エンジンオイルの交換とオイルフィルターの洗浄を行います。
- 4 ↓ エアクリーナーを洗浄します。
- 5 ↓ バッテリーを取りはずします。

<注意>

- バッテリーは、換気がよく火気のないところ、また子供の手の届かないところに保管し、月1回程度充電を行ってください。
- 6 ↓ 屋内の湿気の少ない換気のよいところに、カバーをかけて保管します。

10. 故障時の対応

危険：感電

- 本機や体がぬれているときは、運転しないでください。
- 必ずエンジンを停止して行ってください。

注意：けが

- 必ずエンジンを停止して行ってください。

注意：火災・やけど

- 絶対に火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから行ってください。

本機の調子が悪いときは、次の表にしたがって点検してください。
点検しても正常にならないときは、お求めの販売店が弊社営業所に修理を申し付けてください。

症 状	推定原因	処 置
セルモーターが起動しない	1. バッテリーあがり 2. バッテリーの劣化 3. バッテリーの逆接続	1. バッテリーを充電する 2. バッテリーを交換する 3. 「+」「-」を正しく接続する
エンジンが始動しない	1. 燃料コック『閉』 2. 燃料の不足 3. 燃料に水やゴミが混入	1. 燃料コックを『開』にする 2. 燃料を給油する 3. 燃料タンク・燃料ストレーナーの水抜きと清掃（交換）
エンジンがすぐ停止する	1. オイル量の不足 2. 傾斜面での運転	1. オイルを給油する 2. 本機を水平面に移動する
使用機器が作動しない	1. ブレーカー『OFF』 2. 使用機器の電流が定格を超えている	1. ブレーカーを『ON』にする 2. 『使用できる機器の容量』を参考にする

株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2 Tel 0428-32-6181

やまびこ産業機械株式会社

〒 731-3167 広島市安佐南区大塚西6-2-11 Tel 082-849-2005 (代)

やまびこ北海道株式会社

〒 004-0041 北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20 Tel 011-891-2249 (代)

やまびこ東北株式会社

〒 984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50 Tel 022-288-0511 (代)

やまびこ東部株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2 Tel 0428-32-1091 (代)

やまびこ中部株式会社

〒 452-0031 愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39 Tel 052-502-4111 (代)

やまびこ西部株式会社

〒 701-0221 岡山県岡山市南区藤田566-159 Tel 086-296-5911 (代)

やまびこ九州株式会社

〒 816-0943 福岡県大野城市白木原 5-3-7 Tel 092-573-5361 (代)

ご用命の際はご購入いただいた販売店へご連絡ください。

21900-94111

(C) 2013 株式会社やまびこ 著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。